

各作業WGの設置(案)について

社会资本整備審議会
建築分科会／
建築基準制度部会



建築分野の中長期的な あり方に関する検討会

座長：松村 秀一

＜開催スケジュール＞

2月：キックオフ
6月：WG報告①
8月：WG報告②
9月：中間とりまとめ（案）

ストック WG

主査：五十田 博

＜メンバー＞
・清家 剛
・他（調整中）

担い手 WG

主査：清家 剛

＜メンバー＞
・（調整中）

質／技術 WG

主査：腰原 幹雄

＜メンバー＞
・（調整中）

DX WG

主査：池田 靖史

＜メンバー＞
・（調整中）

市街地 WG

主査：有田 智一

＜メンバー＞
・内海 麻利
・中山 靖史
・他（調整中）

＜開催スケジュール＞
4月以降9月までに
計6回程度

＜開催スケジュール＞
4月以降9月までに
計5回程度

＜開催スケジュール＞
4月以降9月までに
計5回程度

＜開催スケジュール＞
4月以降9月までに
計5回程度

＜開催スケジュール＞
4月以降9月までに
計5回程度

※担い手中長期ビジョンの議論
(木住室) とも連携

ストックWGの今後の進め方(案)

全体方針：

「建築物を使いこなす」を核に議論を展開

1. 概念整理（第1回～第2回を想定）

- ✓ 「建築物を使いこなすことにより実現する社会」とはどのようなものか
- ✓ 「建築物を使いこなす」とは何を意味するのか。
- ✓ 何ができるば「建築物を使いこなす」になるのか。

2. 実現方策と課題の検討（第2回～第4回を想定）

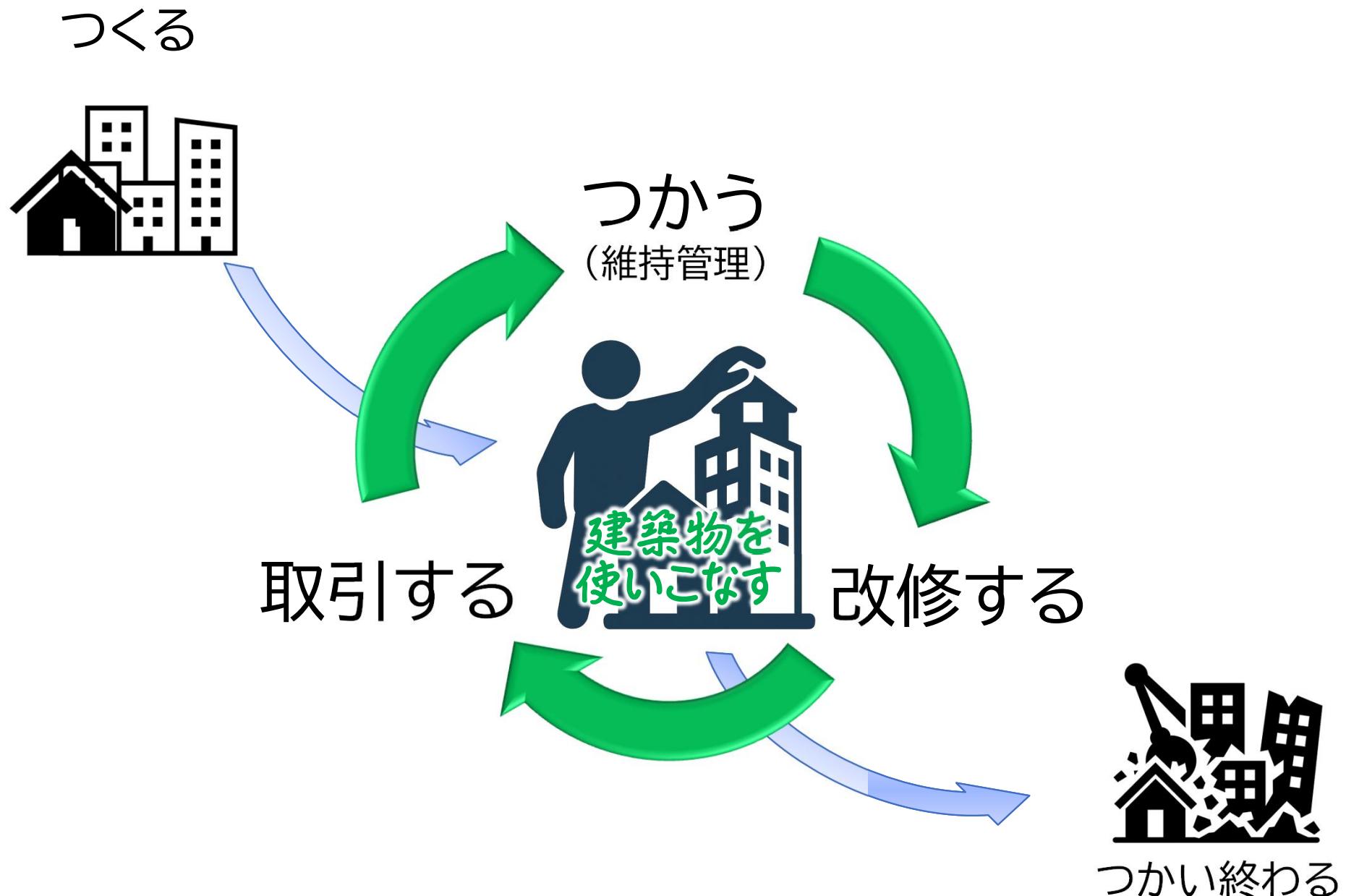
- ✓ 「建築物を使いこなす」ことを実現するまでの課題は何か。
- ✓ 課題を克服する取組・進めるべき取り組みはどのようなものか。

3. 実現戦略の検討（第4回～第5回を想定）

- ✓ 進めるべき取り組みの優先順序をどのように考えるか。どのように進めれば効果的・効率的に実現できるか
- ✓ 「建築物を使いこなす」ことをどのように伝えるか。

4. ストックWGとりまとめの検討（第5回～第6回を想定）

「建築物を使いこなす」とは何か



担い手WGの今後の進め方(案)

担い手WGの議論の進め方(概要)

※第1回検討会(2/19)時点の情報であり、各WG開始時までに変更があり得る

社会環境の変化

＜供給側の変化＞

人口減少・少子高齢化 等

＜需要側の変化＞

ニーズの高度化・多様化
(質の向上、DX 等)

建築サービス需要
の変化 等
(ストック充足・活用 等)

建築生産・行政の変化や課題

＜論点①＞

・社会環境の変化により、現在、建築生産・行政とその担い手には、どのような変化や課題が生じているか。

・また、(現在、生じているもの以外で、) 将来、見込まれる又は(今後、新たに必要となるなど) 将来に向けて踏まえるべき変化や課題には、どのようなものがあるか。

・社会環境の変化により、建築人材(建築技術者・技能者)の供給体制にどのような変化や課題が生じているか。

建築生産・行政の担い手の役割

＜論点②＞

・論点①を踏まえ、建築生産・行政は、その持続性を確保する等ために、どのような方向を目指すべきであるか。

例：建築生産のあり方、建築行政のあり方、DXの徹底、業務の削減 等

＜論点③＞

・論点①、②を踏まえ、建築生産・行政のそれぞれの担い手は、どのような役割を担うべきであるか。

担い手の確保・育成の方向性

＜論点④＞

・論点①～③を踏まえ、建築生産・行政のそれぞれの担い手は、その役割を担うための組織や業務はどのようにあるべきか。

・その中で、どのような人材を必要とするか。

＜論点⑤＞

・論点①～④を踏まえ、産学官でどのような取組を進めるべきか。

・建築生産体制の転換の取組

・人材の確保・育成の取組

各論点の関係性

※第1回検討会(2/19)時点の情報であり、各WG開始時までに変更があり得る

〈論点①〉

〈論点②〉

建築生産・行政の
変化や課題

建築生産・行政の
目指すべき方向性

建築生産・行政
の担い手の
変化や課題

〈論点④〉

〈論点⑤〉

建築生産・行政の
それぞれの担い手が
担うべき役割

役割を担うための
組織／業務
のあり方

産学官の取組
(建築生産体制の転換)

建築人材の
供給体制の
変化や課題

必要となる人材

産学官の取組
(人材確保・育成)

例えば、
・ BIMワークフローへの転換
・ ストック対応
・

例えば、
・ 教育・資格・実務の連携強化
・ 社会のニーズへの対応
・

質／技術WGの今後の進め方(案)

1. 建築物の質と技術について

- ・未来の建築物の姿はどのようなものか
- ・建築物の質と技術はどのような関係性にあるか
- ・建築物が社会に果たすべき役割は何か
- ・社会が建築物に求める質は何か

2. 質の分類や水準について

- ・最低限確保すべき質や政策的に向上を推進すべき質は何か
- ・それはどのような考え方に基づき分類することが考えられるか
- ・最低限確保すべき質や政策的に向上を推進すべき質の水準はどのように考えればよいか
- ・新築に求める水準と既存に求める水準はどのように考えればよいか
- ・質に対する社会の新たなニーズや、質の水準に対する社会のニーズの変容に対してどのように対応すべきか

3. 質の担保や向上のための方策について

- ・最低限確保すべき質の水準を担保するための方策としてどのようなものが考えられるか
- ・建築物に対する行政のチェック体制は今後どうあるべきか
- ・政策的に向上を推進すべき質の水準を確保するための方策としてどのようなものが考えられるか
- ・相反する質がある場合、そのトレードオフはどのように考えればよいか

4. 建築技術について

- ・成熟した技術と新しい技術に対してどのような対応が考えられるか
- ・技術開発を促進するための枠組としてどのようなものが考えられるか
- ・長期的な使用（100年など）を前提とした建築物を計画するときどのような視点をもつ必要があるか
- ・新しい技術を試行しやすくするための枠組としてどのようなものが考えられるか
- ・技術の進歩によって建築物をめぐる環境はどのように変化すると考えられるか

2026

2030頃

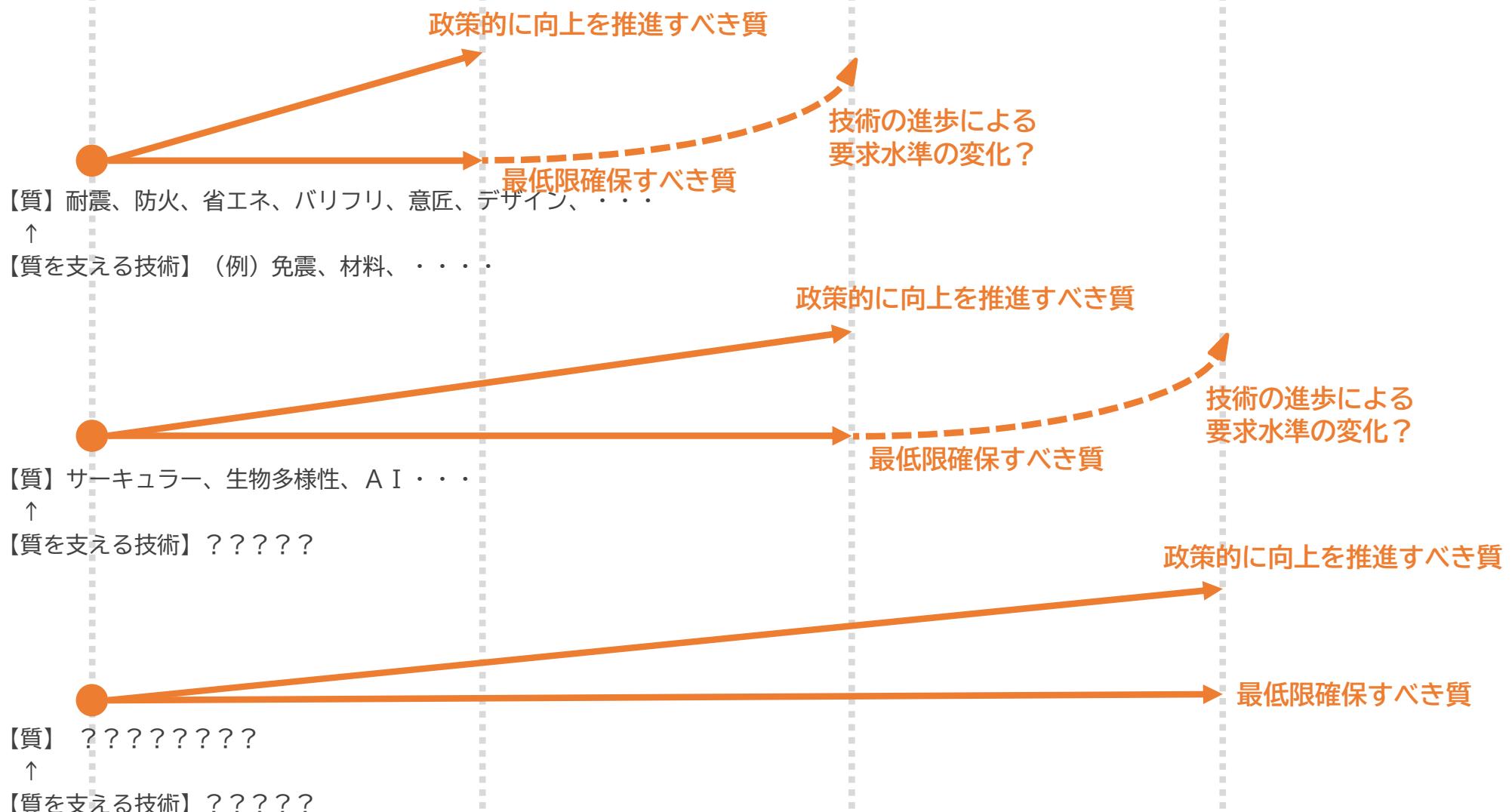
2040頃

2050頃

短期的視点

中期的視点

長期的視点



DXWGの今後の進め方(案)

1. 建築DXが実現する将来像の検討

- ✓ 「建築DX」が進んだ先では建築生産・維持管理は何が変わらるのか。

2. 将来像の実現に向けた戦略と推進すべき取組

- ✓ 「建築DX」を業界全体に波及させるためには、どのような戦略で進めるべきか。
現在は【①建築行政手続きの電子化の徹底 ②BIMを通じた建築物情報プラットフォームの活用 ③建築物データの活用】を柱に推進
- ✓ 特にDXを推進する必要がある分野はどのような分野か。
例) 法適合チェック支援、統合BIM開発基盤の開発、現場検査支援など

3. 克服すべき課題

- ✓ 来るべき「データ駆動型社会」の実現に向け克服すべき社会的課題は何か。
例) 権利関係、基準・規格の策定者利益の確保など

4. 官民の役割分担

- ✓ 建築DXを進める上での官民それぞれの役割分担は何か。
例) 民間は個別技術の開発・導入を主体的に行い、国は個別技術開発のための環境整備

市街地WGの今後の進め方(案)

『中間的なとりまとめ』(R8.1.20)に向けた議論における「まちづくりとの接続」論点案

- ① 市街地が社会に果たすべき役割は何か。
- ② 建築物が市街地環境に貢献すべき役割は何か。
- ③ 目指す市街地像とは何か。
- ④ 建築はまちづくりにどのように貢献できるか。
- ⑤ 目指す市街地環境を実現するための政策体系はどうあるべきか。

<検討フロー(たたき台)>

これまでの議論の共有

- ・「中間的なとりまとめ」の内容（社会像、経済社会情勢の変化、取組事項等）
- ・集団規定委員会や中長期懇談会での議論
- ・近年の都市政策における検討内容等

第1回を想定

目指すべき市街地像について

- ・2050年を見据えた、社会変化等の背景的要素
- ・市街地が果たすべき役割・目指すべき市街地像等の全体像（論点①～④）
 - +ゲストスピーカー等による話題提供・ワークショップ等

第2～4回
を想定

- ・市街地が果たすべき役割・目指すべき市街地像等を議論（具体化）（論点①～④）

政策体系・施策の考え方、方向性等について

- ・市街地が果たすべき役割・目指すべき市街地像等を踏まえた、政策体系・施策の考え方、方向性の案

第4回を想定

WGとりまとめ

- ・ビジョンへ盛り込む内容・体系等

第5回を想定